

ずいそう

## 芳しいバラの香りを楽しもう

中村 祥二



バラは私達の身の回りに見かけるポピュラーな花であるがその歴史や香りについてはあまり知られていない。ここではバラについての簡単な紹介と近くのバラ園で嗅ぐことも出来る芳香バラについて述べ、読者の皆様がバラのよい香りに興味を持つきっかけとして頂ければと考えた。

バラは古代ギリシャやローマ時代の昔から、数ある花の中でも最も優れた花として、多くの人々に愛されてきた。それは姿、形、色彩のみならずその芳しい香りによって人々を魅了したからである。

中世の暗黒時代には、美しいもの、甘美なものは悪魔の手先であり、人の心を誘惑する悪いものと考えられ、バラはその美しさのために修道院の庭で細々と栽培されたに過ぎなかった。

15世紀ルネサンスの時代を迎えるとポッティチェッリの絵画「春-Primavera」に見られるように、バラもまた復活した。19世紀後半、中国の栽培バラから四季咲き性を導入し育成されたハイブリッドティー系統の初めての品種が生まれた。現在、私たちの身の回りに咲く美しいバラの大部分はこのモダンローズのハイブリッド・ティー・ローズ (HT) である。

ところが最近になって、バラには「香りがありますか」と問われたときには、愕然とした。香りの女王といわれるバラが、どうしてなのか。花屋の店先でバラを嗅いでみると確かに香りが薄い。バラの育種の歴史も他の花と同じように、育種の過程で、香りが意図的ではないにしても排除されてきたのだ。

それにしても、数多くのバラのなかには香りの良いバラがあるはずだ。1983年頃から千葉県八千代市にある京成バラ園の協力と鈴木省三先生に指導を受け数百種類のバラから芳香バラを選定した。香りおよび成分分析研究から多くの芳香バラの系統の特徴を明らかにすることが出来た。それ以来、各地のバラ園やバラコンクールで多くの芳香バラに出会うことになった。下表に芳香バラの分類の概略と代表的な品種を記載した。

大きなバラ園に行けばこれらのバラはたいてい植栽されている。私が関わっている新潟の越後丘陵公園(ここでは国際香りのばら新品種コンクールを2007年から行っている)、千葉の佐倉草ぶえの丘バラ園、京成バラ園、神代植物公園では芳香バラがよく揃っている。春と秋の良い季節にバラ園を訪れることをお勧めしたい。

現在バラの香りは世界的に注目されていて、大きなバラ園芸会社で芳香バラの育種が盛んに行われている。芳香バラの復権が進んでいるのは嬉しい。

—なかむら しょうじ 国際香りと文化の会 会長—



写真 芳純

表 芳香バラの分類と代表品種

	香りのタイプ	代表的な品種
1	ダマスク系の華やかで強い甘さを持っている香り。 芳純、パパメイアンは芳香バラコンクール上位入賞の常連。	芳純(写真)、香具山、ティファニー、パパメイアン、クリムソン・グローリー、ネージュ・パルファン
2	紅茶の香りの特徴を感じるソフトで親しみやすい香り。 ダージリンの紅茶の新しい缶を開けたときのような香り。	レディ・ヒリンドン、デオラマ、ロイヤルハイネス、春芳、ガーデンパーティ、グラン・モゴール
3	果物の特徴を持った香り。ピーチやラズベリーなどの香りを持つ。他にアプリコットや洋ナシなど極めて多様。	ダブルデライト、ドゥフトヴォルケ、ホワイト・クリスマス、ハーモニー
4	青バラ系の香りの良い品種の香り。やや淡白なダマスクの系の香りを持つ。 サントリー開発の青いバラ Applause もこの系統の香り。	ブルーパフェム、ブルームーン、スターリング・シルバー、シャルル・ドゥ・ゴール
5	スパイスのクローブの香りの特徴を持った香り。 ムスク系のバラにこの特徴が見られる。 雄しべである葯から香ることが多い。	デンティ・ベス、ハマナス系、粉粧楼
6	ハーブのアニス・シードの香りの特徴を持った香り(よくミルラの香りといわれる)。イングリッシュローズに多い。	セント・セシリア、グラミス・キャッスル、アンブリッジ・ローズ